菊地礼華さんと私

印象文
（親しみやすい人）

Ｄ班　清水綾乃（しみずあやの）

１．菊地礼華さんの印象

最初にあった時にグループが同じことがわかると彼女は「あ、同じ班の人？よろしくねー！」と私に気軽に話しかけてきてくれたので、一番の印象は親しみやすい人にした。そのあとは、４人での会話を引っ張っていってくれるムードメーカーであるとも思った。私はあまり話を続けるのが得意ではないので非常に助かった。見習いたい限りである。散歩の場所を決める時も率先して意見を出し、彼女の意見が採用されていた。彼女がいると会話が途切れることが基本的にない。状況に応じて話題を振ってきてくれる。この班にとって彼女の存在は大きいと思う。いつも笑顔で話をしてくれるのでこっちも楽しく話を聞けるし、こっちもつられて笑顔で話ができる。しかも毎回普通に話が面白い。散歩のときは回転寿司に行ったが、注文を頼むモニターが彼女側にあったが気兼ねなく彼女に頼んで注文してもらった。親しみやすく、気を張って接さなくてもいい、そんな人であると感じた。

２．特に聞きたいテーマ；漫画（エヴァンゲリオンなど）

前回のインタビューではまず礼華さんに好きなものを挙げてもらい箇条書きにした。その中に漫画があり、彼女は漫画の中でもエヴァンゲリオンが好きだと言っていた。私もその漫画は読んだことがないが、それをアニメで見たことがあり非常に面白いと思っていた。彼女とはそれの話でかなり盛り上がったので、これを使えば彼女の好きなものをわかることができると思ったから、このテーマにした。エヴァンゲリオンのほかにもかなり漫画は好きなようで、いろいろな漫画を紹介してくれた。私も漫画は娯楽として素晴らしいものであると思うので、彼女が紹介してくれたものも読みたいと思った。漫画にはいろいろなジャンルがあり、その人の好きな漫画を読めば少しはその人のことがわかると私は思っている。中学、高校のときも好きな漫画が似ている友達とは気が合ったりした。漫画を読むことは娯楽なので、その人のほんとに好きなものや趣味などが出ると思うので、ここから礼華さんのことを知っていくのがいいと思った。

３．話し合いの結果

（１）６月６日の話し合い

私はこの日にダンスの話を菊池さんから聞いたときに、テーマを漫画からダンスに変えようと思った。この日は食堂にグループの人と４人でテーブルに座って話していた。このグループは仲がいいから菊池さんもだいぶリラックスした様子だったと思う。最初は漫画のどれが他にお勧めだとか、こんなストーリーなんだとかの話をしていたが、彼女がスポーツ系の漫画も好きだと言ったので、（特に好きなのはスラムダンクというバスケの漫画だそうだ）バスケの経験者なのかと問いかけたところ中学の時にやっていて、今は土曜にやるバスケのサークルに入っていると言っていた。そこで私は高校の時はバスケはやってなかっ

たのかと聞いた。菊池さんは「高校の時はダンスがやりたくて、部活は入らないでスタジオに通ってたの。今も大学ではダンスのサークルに入っているよ。」と言っていた。部活に入らないでわざわざダンスのスタジオに通っていたのかと驚いた。高校の入学式の帰りに母親にまたバスケをやるのかと聞かれて、いや、私はダンスがやりたいと思い、親に頼んだと言っていた。もともとＫ－ＰＯＰのアイドルが好きでこの人たちの踊りがすごいと思ったのがきっかけ。それと同時に、バスケは好きだけれど部活というくくりになってしまうと自由に楽しいバスケができなくて､強制っぽくなってしまうのが嫌だったのだという。この話を聞いていて、彼女はすごくダンスが好きで時間が終わっても語り足りない、という様子だったのでテーマをダンスにした。

（２）６月２０日の話し合い
この日も食堂で話し合っていた。テーマを漫画からダンスにしたことを伝えると、漫画も良かったけど、ダンスはもっと語ることがいっぱいあると少しうきうきしているように見えた。まず、高校１年の時にダンススタジオに友達と一緒に入ったのではなく、一人で入ったのだそうだ。その時たまたま同じ時期に一人ではいった子とユニット“ＭＯＡ”を結成。高校は違ったし、今は東京でダンスの専門学校に通っているが、親友と呼べる人だそうだ。菊地さんは私にはリスクのあることでできないのに、そういうことを簡単にやろうと思える親友を尊敬していると言っていた｡ダンスは曲を選び､ダンスの振り付けを考え、どのイベントに出たいかまでも、自分たちで決める。私はダンスの振り付けはどこかのアイドルグループのものを真似するのだと思っていたし、スタジオに入っているならばそこで何か指示のようなものがあるのだと思っていた。彼女たちのスタジオ以外の練習場所はアルベのキラメキ広場｡そこではほかの高校生のグループや社会人も練習しているらしい。そこで出会った男の先輩が総合ダンス祭という秋田の高校生のみ出演可能なイベントに誘ってくれて出演したのが初舞台だった。今考えてみればダンスだなんて言えるものではないが、あの時は成功したと思ったし、すごく興奮して、これからもっと練習を頑張ろうと思ったようだ。初めて舞台に立った思い出のイベントは思い出な理由がもう一つあって、彼女たちが最後に出て、また主催者になったイベントでもあるからだ。高校生だけのイベントであるため、主催者の彼女たちがすべてのことをまとめてイベントを開催したのだという。総合ダンス祭は始まりであり、終りであったわけだ。こんなにも思いをささげることができるものがある菊池さんを少しうらやましいなと思った。私もそこそこ趣味はあるがこんなに熱中したことはない気がする。ユニットを組んでいた親友のことも大好きで、家族のように思っていたと言っていた。

４．まとめ
菊池さんにとってダンスとは高校時代の大半であり、ほんとに大好きなこと。自分から本気でやりたいと思い、今でも続けていること。今考えても、高校１年の時の決断は間違っていなかった、ダンスをやっていてよかったと言っていた。
菊池さんは自分をしっかり持っていて、また友達を大切にできる人であると思った。
彼女と話していて、もっとダンスの話を聞きたい、ほかの話もしてみたいと思った。きっと話し上手なのだと思う｡彼女のことを慕っている人は多いと､話す雰囲気を見て思った。

５．授業を終えて

（１）文化、コミュニケーションとは

ある人と関わるうえでその人の性格や雰囲気、言葉遣いなどを形成してきたものが文化である。また、自分と同じ文化の中で生きてきた人とも、違う文化で生きてきた人とも、その人自身を理解しようとしながら接していくことをコミュニケーションというのだと思う。ここで私が思うのは、違う文化の中で生きてきた人同士であっても、無理に接しているのはコミュニケーションとは呼ばないのだと思う。お互い楽しく接することが大前提であると考える。

（２）授業について

初めてあった人の奥深くまで知るためにたくさんおしゃべりをするという初めのころが一番難しいことだった気がする。だが、これを重ねることで、だんだんとグループのこと中約なっていけたのはほんとにうれしいことである。これにより、少し人見知りがちな私はちょっとだけ自信を得ました。改善してほしかったことは、やはり教室をもっと大きくしてくれたら、みんなと話しやすかったと思うだ。